

公益の風 #26

東北公益文科大学 准教授

小 関 久 恵



私の専門は社会福祉学・ソーシャルワークです。ご縁があつて東北公益文科大学に着任し、社会福祉士(ソーシャルワーカー)養成教育を担当しています。ソーシャルワーカーとは、人々が抱える生活上の困りごとの相談に乗り、より良い状態(wellbeing)・身体的・精神的・社会的に良い状態のことに向けて共に取り組む専門職で、そのアプローチの射程は個人に対するエンパワメントから社会変革・社会開発まで幅広いところに特徴があります。

地域づくりの土壌を耕すお手伝いを

づくり活動に、教育プログラムや学生の主体的な活動をサポートすることを通して参画させていた

に出講しました。テーマは「持続可能なふるさと社会にするために自分ができること」。コミュニティセンター等にインタビューに出向いて調べ学習を行った1年生75名を

岩手県釜石市をフィールドに長年プロジェクト研究を行ってきた東大社会科学研究所の玄田有史らは、「人口が減っても、地域は簡単にはくならない。だが、小ネタが尽きると、あつという間に地域は衰退する」と指摘します(東大社研・中村尚史・玄田有史編(2020)『地域の危機・釜石の対応―多層化する構造』。地域づくりを支える土壌は、小さくても確実にそこにある実践の数々や、中学生のアイデアから感じられるような真っ直ぐでユニークな発想から、豊かに耕されていくように思

初めは授業の一環で関わっていた学生たちですが、2018年に学生数名が「Praxis」(プラクシス。ドイツ語で実践という意味)という活動団体を立ち上げました。授業後も地域に関わり続けたいという思い

12年前、大学に相談に

自分たちの手と足と頭で、地域づくりの土壌を耕す。住民の皆さんが大事にしたい暮らし方・生き方を創造していくその過程を、微力ながらお手伝いしていければと思

「課題はあるけれど、まずやってみよう」という挑戦に向きな住民の皆さんの姿勢があったからこそ生まれたものだと思います。今では40名程のメンバーが地域活動を行っています。

先日、そんなPraxisメンバーと一緒に酒田市立島海八幡中学校の「総合的な学習の時間」

「総合的な学習の時間」

希望の灯を消さないように「私には一体何が出来るだろう



日向地区地域づくりビジョン策定ワークショップの様子